

白山で除去対象の

外来植物

と

交雑の恐れがある

在来植物



シロツメクサ

ヨーロッパ原産。茎は地表をはって発根、分枝してマット状に広がる。小さな花が密集して球形に見える。多年草。

生息地：室堂、南竜ヶ馬場、砂防新道等



スズメノカタビラ

高さ10~25cm。人家周辺や空き地、畑地など、いたるところで普通に見られる。1~2年草。

生息地：白山全域に分散



フキ

山野の路傍に生え、茎は地下で伸びる。花は蔕の薑(フキノトウ)と呼ばれ、葉柄とともに山菜として食べられる。低地では馴染み深い多年草。

生息地：標高約2,100m以下の登山道沿い全域



エゾノギシギシ

ヨーロッパ原産。高さ60~130cm。葉は長さ30cm、幅12cmにもなる。草地などで見られる。多年草。

生息地：南竜ヶ馬場、延命水周辺



外来タンポポ

ヨーロッパ原産のタンポポ。1株だけでもたくさんのタネができるので一気に分布が広がる多年草。

※外来タンポポとは、セイヨウタンポポ、アカミタンポポを含みます。

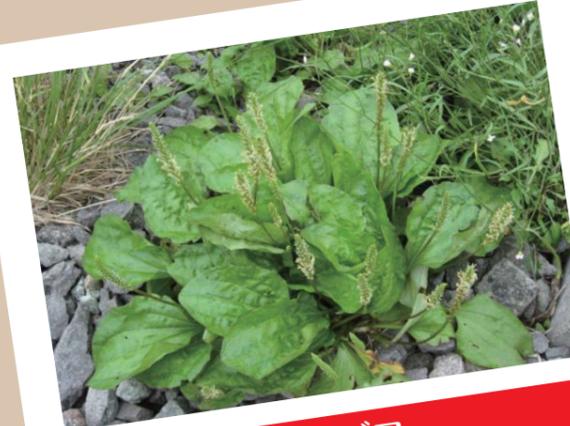
生息地：室堂、南竜ヶ馬場に集中



ミヤマタンポポ

高山帯の開けた草地や礫地で見られる多年草。

生息地：室堂周辺をはじめ、高山帯一帯



オオバコ

高さ10~50cm。白色の花を密に穂状につける。日当たりのよい道ばたや空き地に普通に見られる。多年草。漢字では、大葉子。幅の広い葉にちなんで名付けられた。

生息地：標高約2,100m以下の登山道沿い全域



ハクサンオオバコ

高さ約10cm。花をまばらに穂状につける。白山が日本における分布の西限。白山では生育場所が限られている。

オオバコとの交雑が危惧される。

生息地：南竜ヶ馬場、南竜~別山~三ノ峰間など

見分け方

外来タンポポ

切れ込みが深く、ギザギザな形の葉。花の裏(総苞外片)が反り返っている。

ミヤマタンポポ

葉の形は舌状。花の裏(総苞外片)が反り返っていない。

見分け方

ハクサンオオバコの葉の表面には細かい毛があり、さわるとフワフワ。オオバコは毛がなくツルツル。花のつき方も異なる。



オオバコ



ハクサンオオバコ

※除去方法は場所や種類によって異なります。また、除去は許可を受けている方のみが行えます。